

# 恋愛楽曲歌詞研究

～バブル期と現在を比べて～

2021年11月15日提出  
3年2組11番 萩山 果歩

## I はじめに

日本国内での恋愛楽曲はどの時代においても人気であり、歌詞はその時代の特徴を映し出すため、歌詞の特徴も時代とともに変化を遂げている。特にSNSの登場によって歌詞もまた大きく変化することになった。私たちの生活とともに変化をしている恋愛楽曲の歌詞は、いったいどのように変化をしているのだろうか。

本論文ではバブル期から現在の恋愛楽曲の歌詞の変化に注目し、以下の手順に沿って論じていきたい。まず、各年代を代表する恋愛楽曲を示し(Ⅱ)、バブル期と現在の恋愛楽曲の歌詞の特徴を比較、変化について考察し(Ⅲ)、その変化とSNSとの関係について読み解く(Ⅳ)。最後に以上のことを踏まえてバブル期から現在まで、恋愛楽曲と時代の変化の間に通底する特徴を考察していきたい。(Ⅴ)。

## II 恋愛楽曲の変化

恋愛楽曲は国内でのヒットチャートランキングの大半を占めている。例えば2020年のオリコンランキングストリーミング部門では10曲中8曲が恋愛楽曲である。official髭男dismの「I LOVE...」や瑛人の「香水」のヒットは記憶に新しいだろう。アーティスト達は恋愛楽曲においてどのような表現を用いて恋愛について歌ってきたのだろうか。そして、大衆に好まれる恋愛楽曲の歌詞はどのような特徴をもちどのように変化してきたのだろうか。

豊田雄大は「平成30年間における、ヒットソングの歌詞の変遷について」の中で簡易分析とテーマ別の詳細分析をおこない、平成30年間の恋愛楽曲の歌詞を分析した。豊田は女性アイドルが歌う恋愛ソング、男性アイドルが歌う恋愛ソングというように歌手のジャンルをわけ、それぞれのジャンルでの歌詞の特徴をまとめ、最後に特徴について比較、考察をし、1989年から2019年にかけて自分の恋愛観について一方的に歌う楽曲が増えていると指摘している<sup>1</sup>。

本論文では豊田の、特徴を分析しそれらを比較するという方法を参考にしながら、1986年から1991年のバブル期と2015年から2020年の現在の恋愛楽曲の歌詞を比較、検討しどのような変遷があったかを社会的背景との関連から考察してみたい。見田宗介が「流行歌は(さまざまな制約や限界をもってはいるが)時代の民衆の心情のありかを知るための資料としては、最もすぐれた資料の一つであるといえよう」<sup>2</sup>と指摘しているように流行歌の歌詞はその時々を社会的背景と大きな関連がある。恋愛楽曲の歌詞の変化の裏にはどのような社会的背景の変化があったのだろうか。

本論文で比較、検討する楽曲の選曲基準は以下の通りとする。1986年から1991年はオリコンシングルチャートから恋愛を歌った上位5曲、2015年から2018年は豊田による平成三十年間のヒットソングをまとめた表<sup>3</sup>に記載されている恋愛楽曲、2019年から2020年はオリコンストリーミングチャートから恋愛を歌った楽曲を上位5曲を選出することにした。各年代によって選出基準が異なるのは、音楽を聴く手段がこの30年間で変化しており、それに対応するためである。今回分析するバブル期の歌30曲、現在の歌34曲の一覧は表1を参照されたい。

それでは次の章から具体的な分析に入っていくことにしよう。

表1 分析する楽曲一覧

<sup>1</sup> 豊田雄大(2020)「平成30年間における、ヒットソングの歌詞の変遷について」p.36  
(<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~kokugo/nonami/2019soturon/toyoda.pdf>)

<sup>2</sup> 見田宗介(2012)『定本見田宗介著作集Ⅳ 近代日本の心情歴史』岩波書店p.10

<sup>3</sup> 豊田前掲論文p.15

バブル期				現在			
番号	年	曲名	歌手名	番号	年	曲名	歌手名
1	1986	DESIRE-情熱-	中森明菜	1	2015	Green Flash	AKB48
2	1986	仮面舞踏会	少年隊	2	2015	唇にBe My Baby	AKB48
3	1986	BAN BAN BAN	桑田佳祐	3	2015	コケティッシュ渋滞中	SKE48
4	1986	My revolution	渡辺美里	4	2015	もしも運命の人がいるのなら	西野カナ
5	1986	恋におちて	小林明子	5	2015	トリセツ	西野カナ
6	1987	命くれない	吉幾三	6	2015	君がくれた夏	家入レオ
7	1987	TANGO NOIRA	中森明菜	7	2016	君はメロディー	AKB48
8	1987	雪國	吉幾三	8	2016	LOVE TRIP	AKB48
9	1987	STARLIGHT	光GENJI	9	2016	サヨナラの意味	乃木坂46
10	1987	難破船	中森明菜	10	2016	恋	星野源
11	1988	ガラスの10代	光GENJI	11	2016	I seek	嵐
12	1988	Diamondハリケーン	光GENJI	12	2016	復活LOVE	嵐
13	1988	DAY BREAK	男闘呼組	13	2017	#好きなんだ	AKB48
14	1988	MUGO・ん…色っぽい	工藤静香	14	2017	11月のアンクレット	AKB48
15	1988	剣の舞	光GENJI	15	2017	シュートサイン	AKB48
16	1989	Diamonds	プリンセスプリンセス	16	2017	逃げ水	乃木坂46
17	1989	世界でいちばん熱い夏	プリンセスプリンセス	17	2017	背中越しのチャンス	亀と山P
18	1989	太陽がいっぱい	光GENJI	18	2017	TOKYO GIRL	Perfume
19	1989	愛が止まらない	wink	19	2018	Teacher Teacher	AKB48
20	1989	恋一夜	工藤静香	20	2018	センチメンタルトレイン	AKB48
21	1990	浪漫飛行	米米CLUB	21	2018	Lemon	米津玄師

				1			
22	1990	今すぐKISSME	LINDBERG	2	2018	シンデレラガール	King&Prince
23	1990	OH YEAH!!!	プリンセスプリンセス	2 3	2018	瞬き	Back number
24	1990	くちびるから媚薬	工藤静香	2 4	2018	愛のカタチ feat.HIDE(GREEEEN)	MISIA
25	1990	真夏の果実	サザンオールスターズ	2 5	2019	Pretender	Official髭男dism
26	1991	ラブ・ストーリーは突然に	小田和正	2 6	2019	マリーゴールド	あいみょん
27	1991	SAY YES	CHAGE and ASKA	2 7	2019	白日	King Gnu
28	1991	はじまりはいつも雨	ASKA	2 8	2019	今夜このまま	あいみょん
29	1991	あなたに会えてよかった	小泉今日子	2 9	2019	君はロックをきかない	あいみょん
30	1991	LADY NAVIGATION	B'z	3 0	2020	夜に駆ける	YOASOBI
				3 1	2020	I LOVE…	Official髭男dism
				3 2	2020	香水	瑛人
				3 3	2020	Make Me Happy	NiziU
				3 4	2020	裸の心	あいみょん

### III バブル期と現在の恋愛楽曲の歌詞の変化

#### (1) バブル期と現在双方の特徴分析と比較

まずバブル期の1986年から1991年の恋愛楽曲30曲を歌詞に注目して分析してみよう。全体を通して見られる特徴は大人による恋愛が歌われることが多い点だ。学生視点だと連想させる言葉(制服、学校行事など)はほとんど見受けられなかったが、働いている成人視点だと連想させる言葉(お酒の名前など)を実際に歌詞中に用いている楽曲が多くあった。特に注目したい点は恋愛をしている時間帯だ。バブル期は夜について歌う楽曲が多い。成人している場合、日中は仕事に時間を費やす人がほとんどだろう。仕事から解放され自分の時間を過ごすことができる夜に恋愛をしているのだ。学生視点だと推測される楽曲は登下校時の朝や放課後、休日の昼といった時間帯を歌うことが多い。夜は大人にとって、恋愛について考えたり行動したりするために有用な時間帯だったのだ。実際に工藤静香の『恋一夜』では題名にある

ように自分の恋愛について考える一夜を「濡れた髪を/はじめて見せた夜/心が泣いた」という書き出しから描いている。そして少年隊の『仮面舞踏会』では「SHYな言い訳/仮面でかくして/踊ろ踊ろかりそめの一夜を」、プリンセスプリンセスの『OH YEAH!!!』では「抱きしめたい/この夜に抱かれていたい/火をつけたい/燃えつきたい」という歌詞がある。業務終了後や休日の夜に対象の相手に会い、交流を計っていたことがうかがえる歌詞である。このようにバブル期では大人の恋愛が歌われることが多かったのである。

そしてひとつひとつの描写が具体的な歌詞が多い。プリンセスプリンセスの『Diamonds』では「幾つも恋して/順序も覚えて/KISSも上手くなったけど/初めて電話するときは/いつも震える」。LINDBERGの『今すぐKISSME』では「歩道橋の上から/見かけた革ジャンに/息切らし駆け寄った/人ごみの中」、中森明菜の『DESIRE-情熱-』では「やりきれない程/退屈な時があるわ/あなたといつも/喋るくらいなら/踊っていたいの今は」というように自分が何を思いどのような行動をしたのか、相手の行動に対して自分が何を思ったのか、といった自分の感情や欲望について遠回しな表現を用いることなく素直に歌っている。そのため、歌詞を読むだけで歌い手がおかれている状況や心境を容易に想像することが可能である。

表現が直接的な歌詞が多いことも特徴の一つだろう。相手のことをどう思っているのか表現するために「愛」という言葉が登場する楽曲は30曲中17曲と半数を超える。CHAGE and ASKAの『SAY YES』では「愛には愛で感じ合おうよ/恋の手触り消えないように/何度も言うよ/君は確かに/僕を愛してる」、光GENJIの『ガラスの十代』では「ぎこちない恋でもいい/真実の愛なら/心に嘘はないよ/失くさない君を」など「愛」という言葉を歌詞に用いている。加えて、一度「愛」という言葉が出てくる楽曲では楽曲中に何度も「愛」という言葉が登場する傾向にある。実際に中森明菜の『難破船』では「目の前に違う愛がみえてくるかもしれない」「私は愛の難破船」「ほかの誰かを/愛したのなら」と歌詞中に5回、ASKAの『はじまりはいつも雨』では「君を愛する度に/愛じゃ足りない気がしてた」「僕は上手に君を愛してるかい/愛せてるかい」「愛の部品もそろわないのにひとつになった」と歌詞中に7回「愛」という言葉が登場する。自分の相手に対する気持ちを仄めかしたり遠回しに表現したりすることなく直接的な言葉で表しているのだ。

例として示した曲の歌詞にも共通するように、中森明菜の『DESIRE-情熱-』では「腕を離してよキスされるのもごめん気分じゃないの/ヒールを脱ぎ捨て感じているのよ」や男闘呼組の『DAY BREAK』の「渴いた/風を殴り/迎えに来たぜ!/もいちど/お前だけを/守りたくて/“夢見る男って嫌いじゃない”と/泣いたお前/胸に/Sail On Nights」など語尾に注目すると断定的な言葉で終わり、相手の仕草に注目し自分の意志をはっきりと伝える歌詞が多いことがバブル期の楽曲の特徴である。直接的な表現を用いて相手の行動と自分の思いを軸とした歌詞で恋愛を歌いあげているのだ。

次に、2015年から2020年の恋愛楽曲34曲を歌詞に注目して分析してみよう。全体を通して見られる特徴は自分と相手の対比が多いことだ。あいみよんの「君はロックを聴かない」では「君はロックなんか聴かないと思しながら少しでも僕に近づいてほしくて」と、Official髭男dismの『Pretender』では「グッバイ/君の運命の人は僕じゃない~(中略)~それじゃ僕にとって君は何」といった歌詞や、King&princeの『シンデレラガール』では「キミが思うより/ボクはキミを想ってる/キミはボクが思うよりも/ねえ/ボクを想うのかな」というように相手の考えについて触れながら自分の欲望について歌ったり自分の思いに対して相手が何を思っているのか問いかけたりしている。このように自分と相手の認識が違うことを加味して自分の思いを歌う歌詞が増えているのである。

語尾に注目すると相手に問いかけたり不安がっている様子を見せたりする口調を用いた歌詞が多い。家入レオの『君がくれた夏』では「君がいた夏に/この気持ち/うまく言えなくて/oh/ふたつの心は/何故に離れていくの?」King Gnuの『白日』では「どこかの街で/また出逢えたら/僕の名前を/覚えていますか?」という歌詞や、瑛人の『香水』では「今更君に会ってさ僕は何を言ったらいい?」というような相手の思いに関心を向けて問いかけるような歌詞になっている。

例として示した曲の歌詞にも共通するように相手に伝えたい思いを歌う歌詞ではなく独り言のように思いを綴っている歌詞が多いことも特徴の一つである。特にあいみよんの『裸の心』では「いったいこのまま

いつまで/一人でいるつもりだろう」という書き出しから「今、私恋をしている/裸の心抱えて」という終わりまで誰かに思いを伝えるための歌詞ではなく独白に近い形で恋愛を歌い上げている。

相手との関係性、恋愛観の違いについて独り言のように歌う点が現在の恋愛楽曲の特徴だ。相手の考えについて気にかける様子を見せながら自分の思いについて歌っているのである。

これらの特徴を比較して変化を分析してみよう。まずバブル期の特徴である恋愛の年齢層が成人という点は現在にはあまり見られない特徴である。さらに現在の恋愛楽曲の歌詞では具体的な持ち物や服装について触れることが少なく内容もお互いの関係性について憂うような表現が多い。そのため恋愛をしている人物の年齢層を想定することが難しくなっている。それと同時にどのような年齢層でも共感することが容易な歌詞となっている。

また、バブル期は自分の意志や相手の行動を端的に歌っているが、現在では自分と恋愛対象の関係性や価値観の違いについて歌っている楽曲が多いことも大きな相違点としてあげられる。そして歌詞に用いられる言葉が断定的な口調で自分の思いを表現する歌詞から、相手のことを考えた表現をする歌詞に変わった。自分本位な歌詞から相手本位の歌詞へと変化していることがうかがえる。

つまりバブル期と現在の特徴を比べると歌詞の中で相手の存在や価値観、思考に関する問題を意識するように変化していることがわかるのである。

## (2) 数値的な分析と比較

次に恋愛のシチュエーションについて数値的な分析を行い、結果と歌詞を紐づけた分析を続けてみよう。最初にそれぞれの楽曲の歌詞がどのようなシチュエーションを想定して書かれた歌詞か部類分けを行う。部類分けでは伊藤雅光が「他のソングライターの歌詞の分類に応用してみると、ほとんどこの体系と構造の枠組みのなかに収まる」<sup>4</sup>としたユーミン作品の「恋」のタイプ体系と構造<sup>5</sup>(図2)を参考にする。

---

<sup>4</sup> 伊藤雅光(2017)『Jポップの日本語研究-創作型人工知能のために-』朝倉書店、p.66

<sup>5</sup> 前掲『Jポップの日本語研究-創作型人工知能のために-』p.66

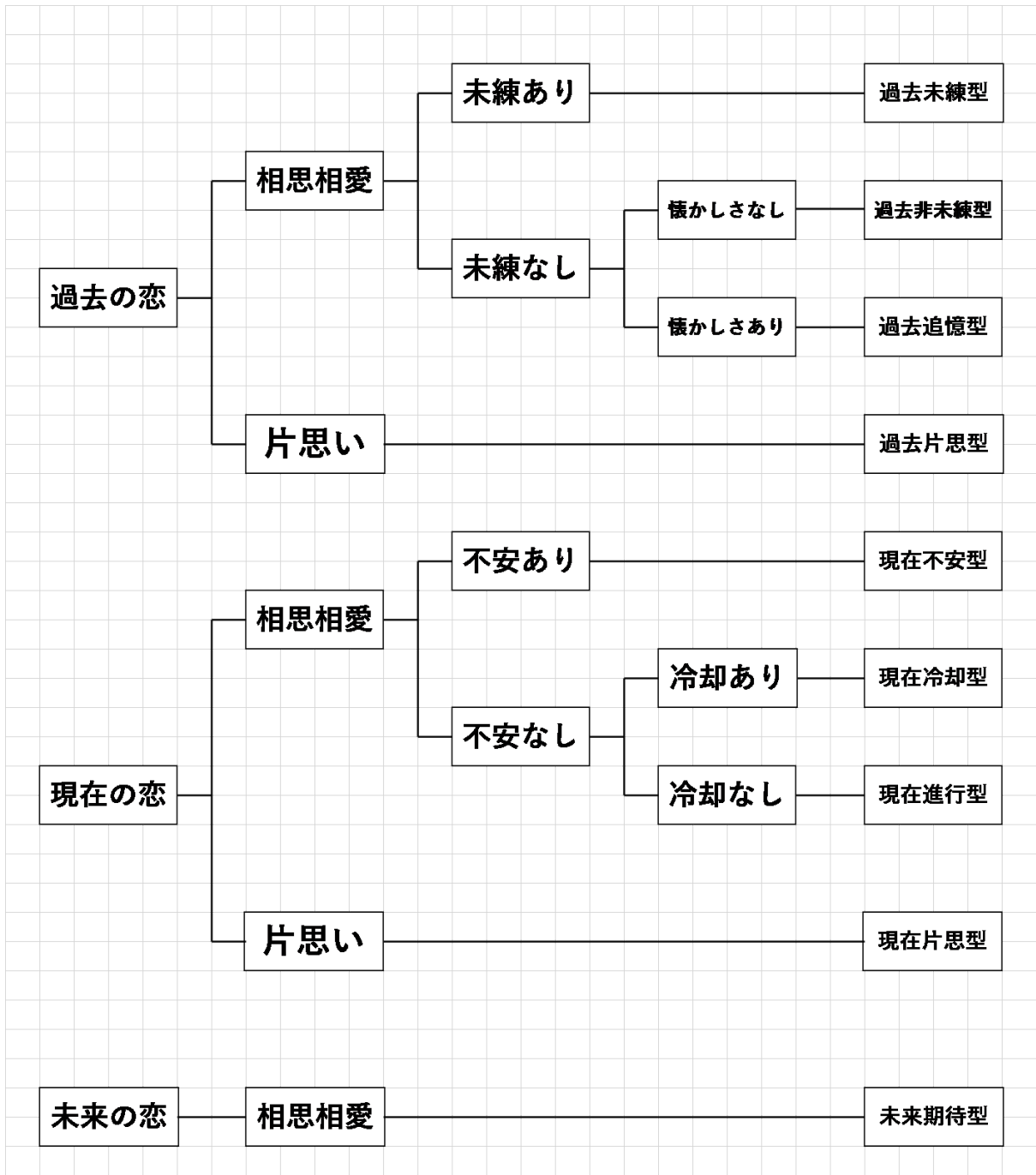


図2 ユーミン作品の「恋」のタイプ体系と構造

出典)伊藤雅光(2017)『Jポップの日本語研究-創作型人工知能のために-』

このように、伊藤はまず恋愛の時系列を過去、現在、未来の三種類に分け、次に恋愛の内容についての部類分けを行った。恋愛の内容については相手と自分が相思相愛であったのか、自分の片思いだったのかを分けた後にさらに部類分けを行う。過去の恋愛の場合は自身の未練の有無、懐かしさの有無、現在の恋愛の場合は相手との関係性についての不安の有無、自身の感情が冷却されているか、いないかといったように分けられている。結果は以下ようになった。

表2 どのような恋愛が歌われていたか

バブル期			現在		
過去	過去未練	6.6%	過去	過去未練	11.7%
	過去非未練	0%		過去非未練	17.6%
	過去追憶	16.6%		過去追憶	11.7%
	過去片思い	0%		過去片思い	0%
現在	現在不安	10%	現在	現在不安	0%
	現在冷却	3.3%		現在冷却	0%
	現在進行	43.3%		現在進行	29.4%
	現在片思い	16.6%		現在片思い	20.5%
未来	未来期待	3.3%	未来	未来期待	8.8%

恋愛のタイプの散らばり方は表2にあるようにバブル期の方が大きいですが、現在と比べて大差はないことが分かる。バブル期、現在共に現在進行形の恋愛について歌うことが多いが、現在の楽曲は過去の恋愛について歌うことも多い。

次に歌詞中に使われる人称に注目して分析を行おう。女性的な言葉であるワタシーアナタの両方、どちらかが使われた場合、男性的な言葉であるオレーオマエの両方、どちらかが使われた場合、キミーボクの両方が使われた場合、男女どちらでも対象になると考えられるキミのみが使われた場合、人称が使われなかった場合、前述した条件全てに当てはまらない場合の6つの部類分けを行った。結果は以下のようになった。

表3 人称の移り変わり



	年	ワタシー アナタ	オレー オマエ	キミーボク	キミのみ	なし	どれでもなし
バ ブ ル 期	1986	1	1	0	2	1	0
	1987	3	0	0	1	0	1
	1988	1	1	3	0	0	0
	1989	4	0	1	0	0	0
	1990	2	0	0	1	2	0
	1991	1	0	3	0	0	1
	計	40%	6.6%	23.3%	13.3%	10%	6.6%
現 在	2015	2	0	3	1	0	0
	2016	0	0	4	2	0	0
	2017	2	0	3	0	1	0
	2018	3	0	3	0	0	0
	2019	0	0	3	1	0	1
	2020	2	0	3	0	0	0
	計	26.4%	0%	55.8%	11.7%	2.9%	2.9%

このように、人称の使い方は年々変化している。表3にあるように、バブル期に比べ現在で用いられている人称の組み合わせの散らばり具合は狭くなっている。現在ではオレーオマエという人称を用いた歌詞が現在には見られないことが顕著にバブル期から現在にかけて人称の組み合わせの散らばりが減少していることを表している。男女の双方を対象として使われるキミ、男女双方の歌手が使うキミーボクという人称を用いている楽曲が現在の全体の約67%を占めることも特徴の一つであろう。

これらの情報をもとに歌詞と紐づけてさらに分析をしていこう。現在ではキミーボクという人称を男性歌手も女性歌手も使うことで男女どちらの視点で書かれた歌詞かが容易にわからないようになった。さらにキミとボクという人称を用いている歌詞は、男性か女性かを仄めかすような言葉（ヒール、ネクタイなど）や語尾（～だわ。かしら。など）も含まれていないことが多く、歌い手が男女どちらでも違和感のない歌詞になっている。

バブル期は女性視点の恋愛を男性歌手が歌うと歌詞の内容からすぐに異性の視点を歌っていることが認識できるが現在の曲は異性の視点を歌っていることに気付くことが難しい。実際にバブル期に歌われた吉幾三の『雪國』では「窓に落ちる風と雪は/女ひとりの部屋には悲しすぎるわあなた」と女性視点の恋愛が男性により歌われている。一方で、現在ではAKB48の『11月のアンクレット』では「セミボブの前髪かきあげ君が微笑むウィークエンド/突然久しぶりに会いたいなんてどうしたんだ？」と男性視点の恋愛が女性により歌われている。

この2曲はどちらも異性の恋愛について歌っているが表現が直接的な歌詞と遠まわしな歌詞とで大きな違いがあることは明白である。なぜこのように大きな差が生まれたのだろうか。それは性差が生まれる表現が用いられているかどうかの違いである。バブル期の楽曲では直接的な「女ひとり」という言葉や語尾に「悲しすぎるわあなた」といった視点が女性であることを表現するような性差が出る歌詞を用いている。しかし現在の楽曲では恋愛が男性視点で進められていることを「セミボブの前髪かきあげ」という言葉から推測して汲み取ることはできないのだ。

以上のようにバブル期から現在にかけて恋愛楽曲では、女性ならではの、男性ならではのといった性差が生まれない歌詞が増えていることがわかる。

バブル期から現在にかけて恋愛楽曲は自分の思いや欲望、価値観を軸にして歌う歌詞から相手の様子を気かけながら自分の価値観を表現する歌詞へと変化している。行動に注目するのではなくそれぞれの思考に注目するようになり相手への気遣いをもちながら独自の価値観や心情のような抽象度が高い内容が歌われている。このような感情や思考といった内容が歌われることが多くなったと同時に男性像や女性像といった固定概念が反映され、性差が生まれる表現は減っている。

以上のことからバブル期から現在にかけて恋愛楽曲の歌詞は相手との関係性や価値観の違いといった性差が出ない内容へと変化していること分かった。ではなぜこのような変化が起こったのか次の章で考えてみよう。

#### IV変化の裏にあるSNS

##### (1) SNSの恋愛楽曲への登場

恋愛楽曲はなぜ自分の思いを素直に歌い上げる歌詞から相手の思いも考えながら自分の価値観を歌い上げる歌詞へと変化したのか考えてみたい。この変化に大きく影響していると考えられるのがSNSの発達、発展である。バブル期と現在を比べた際、私たちの暮らしの中でも著しく変化していることの一つが情報端末の使い方である。西村順二はSNSの特徴について次のように述べている。

SNSでは、身近な繋がりから遠くのつながりまでその射程距離を広げていくことができます。また参加者の情報に多数の人が集まってくることから、関係性が生まれる広場型へ、そしてその逆もまた可能となります。<sup>6</sup>

SNSでは知人やも全く関わりのない他人と情報が共有出来たり、一方的に情報を与えたり受け取ったりすることが可能である。そしてそのSNSを容易に利用することが出来る情報端末の普及は私たちの生活に大きく影響している。歌詞にはその時々々の生活が反映されるため恋愛楽曲の歌詞にも影響を与えたと考えられる。

実際に前章で分析した楽曲であるAKB48の『#好きなんだ』では「#好きなんだ/僕は眩く/この胸の熱い気持ち/リプライ/君からだ/スイカの写真/空振りの僕が写る/大好きな人となう」といった歌詞がある。相手に自分の気持ちを伝え、相手の気持ちを知る手段としてSNSが使われていることがわかる。今回分析した楽曲ではないが、reGretGirlの『ホワイトアウト』では「いつだってなかなか既読にならない/未読のままのラインが不安で/君が少し会いたって言うから/思わず飛び出した午後8時」といった歌詞がある。相手の様子を気にしている状態や連絡手段として歌詞にSNSが用いられている。SNSは恋愛を展開する上で重要な役割をもっていることが分かる。

また、25時、ナイトコードで。の『携帯恋話』では「ねえ/愛してを繋いで/嘘だって笑って/どこへいったって受話器越し/手頃な恋話/決まりの台詞/息をひそめて/「愛してるよ」という歌詞や「どうせまた/おやすみになったフリ/もういいよ/それならばもういいよ/が今日も言えないや/履歴にないような囁きはいらない」といった歌詞がある。題名にあるように携帯の使用によって展開されていく恋愛に注目して歌詞が書かれている。

このように現在の恋愛楽曲においてもSNSは大きな役割をもっていることが分かるだろう。前述したように私たちが情報社会を生きるようになったことは恋愛楽曲の歌詞に影響を与えたと推測することができる。改めて恋愛楽曲の歌詞にSNSの発展がどのような影響を与えたのか考えてみよう。

##### (2) SNSが及ぼした人間関係への影響

<sup>6</sup> 西村順二(2019)「ソーシャルメディアの本質とSNSユーザーの類型」『甲南経営研究』60巻1・2号所収、p.49

SNSがコミュニケーションや情報収集の新しい手段として展開されたこと、日常的に使用されるようになったことは人間関係を形成していくことにおいて大きく影響していることは明白である。前述したように、相手との関係性を歌ったり価値観の違いを歌ったりする恋愛楽曲においてもSNSの発展が影響していると推測できる。SNSの特徴を挙げながらSNSが恋愛楽曲の歌詞にどのような影響を与えたのか考えてみよう。

SNSの第一の特徴は自分がいないところでの他者の動きを知ることが可能なことだ。田中浩史はSNSのこの特徴について次のように述べている。

Twitter利用者の間では「友人や芸能人の近況を知るため」という理由が挙げられ、相手の「つぶやき」によって知ることのできる機能を使って、特定人物の「追跡」や「近況把握」に使われることが多いと分かった。<sup>7</sup>

つまりSNSによって特定の相手を監視することが出来るのだ。SNSが相手の今の状態について知ることが出来る手段としても用いられていることが分かる。

もう一つの特徴は、TwitterやInstagram、LINEなどのSNSはメッセージ機能により相手と連絡を取ることが容易なことだ。連絡をとることが容易になることで相手との関係性を変えることも容易になる。自分が行動を起こそうと決めた場合すぐに実行できるのである。また、それらのメッセージのやりとりは自分が消去しない限り残り続ける。相手との関係性がどのようにメッセージのやりとりで展開されていったのかをさかのぼることも出来る。つまり相手との関係性が可視化できる状態が作り上げられるのだ。SNSでのコミュニケーションの取り方について、正木大貴は次のように述べている。

相手を傷つけたり相手から傷つけられたりするリスクを回避するような現代的な人間関係は、人の懐に深く入り込むことはないが、ある意味「無難な」関係を構築していると言える。この現代的で「無難な」人間関係にはメリットとデメリットがある。メリットは何度も言及しているように、不用意に自分が傷つくようなことはなく、距離が近すぎて関係性がこじれるような面倒くささがないことである。デメリットは常にお互い気を使っていなければならず、相手の本心が読み取りにくく、本当に自分が相手に受け入れられているのかという不安を抱えることになる。<sup>8</sup>

つまり、SNSでのコミュニケーションでは互いに本心が読み取れていないためそこから不安が生まれることもあるのだ。そしてシェリー・タークルは同僚であるシャロンとの対話からオンライン上でのやりとりについてこう述べている。

ありのままの自分を表現したいという願望と、オンラインで最高の自分を見せなければというプレッシャーとのあいだで、葛藤することになるのだ。頻繁なソーシャルメディア利用が抑鬱感や社会不安につながるのも不思議はない。<sup>9</sup>

つまり自分がSNS上で発信した情報を見て相手が何を思うのかについてへの意識が強まっているとタークルは指摘するのである。そしてその意識によりストレスが発生していることも推測できるだろう。

<sup>7</sup> 田中浩史(2014)「跡見学園女子大学生のSNS使用状況に関する調査報告と学生が理想とするSNS環境についての研究考察」『跡見学園女子大学コミュニケーション文化』第8号所収、p.74

<sup>8</sup> 正木大貴(2019)「SNSは人間関係を変えたのか？」『京都女子大学現代社会研究科論集』所収、p.130

<sup>9</sup> シェリー・タークル/日暮雅通訳(2017)『一緒にいてもスマホ SNSとFTF』青土社、pp. 36-37

これらのことからSNS上でのコミュニケーションによる相手との関係性の変化や自分がどのように受け止められているのかといった不安をもちながらSNSを利用していることがわかる。SNS使用時は会話相手に対して気を張っている状態が続いているのだ。

そしてこれらの情報は文字や写真、動画といった視覚から受け取られる情報である。自分と相手との関係性の変化や相手の情報が可視化されることによってより一層これらのことに意識を重点的に向けているのではないだろうか。

前述したSNSでは、毎日大量の情報が流通している。情報の種類も多様で、社会情勢に対する各々の意見や生活に対する個人的な思いが書き込まれる。自分以外の考え方に触れる機会が増えることで新しい視点で問題を見たりや考え方には個人差があることを自覚したりするきっかけになる。新しい視点で物事を見ることが出来るようになるきっかけの例の一つとして、異性の意見に触れることが簡単になった点が挙げられる。

田中東子が「インターネットの空間では多くの女性たちが比較的自由に発言しているように見えている」<sup>10</sup>と述べているように、オンライン上では男女問わず各々の思いが発信されている。実際に「#MeToo運動」では女性が直接体験したセクハラなどの被害を告白するきっかけとなり女性が声を上げる活動が始まっている。三浦展は女性のSNS使用について次のように述べている。

これまで物理的に目に見える形で行われてきた「自分がどんな人なのか」という社会的な表明が、ネット上にまで拡大していることを示している。つまり、デジタルネイティブな現代の女性たちの社会性を捉え、理解を図るのであれば、彼女たちのネット上、特に他者の目に晒されるSNS上の行動を無視することはできないのだ。<sup>11</sup>

つまりSNSは女性の自己発信の拠点になっているのだ。社会的弱者としての位置づけにあった女性がSNSを通じて本心を打ち明けられること、その思いを知ることか出来るようになったことは大きな変化だと言えるだろう。

情報が可視化されることで今まで知る他者の考え方に触れる機会が多くなり、困難であった自分と他者の価値観に違いがあることに気付くことが可能になった。今まで難しかった異性の思いや考えを知ることが容易になった。このことにより、異性への偏見や男性像、女性像が緩和されていったのである。

この異性の考え方に対する関心や理解が高まったことが第三章で触れた性差の出ない内容へと歌詞が変化していることの原因だと推測できる。異性の思いを知る機会が増えたことで、異性に対してもっていたイメージが偏見や勝手な解釈であったことを気付かせたのである。この異性への認識の誤りに気付いたことが、男性はこうあるべきだ、女性はこう思うだろう、といったようなイメージや、語尾に「～だわ。」「～なのよ。」といった口調を歌詞で用いることを減少させたのだ。

このようにSNSの発達は関係や情報の可視化を行い人々に自分と他者の思考が違うことに気付かせた。このことが恋愛楽曲の歌詞の変化にも繋がっていると考えられるのである。

## V バブル期と現在の恋愛楽曲の歌詞の変化

バブル期と現在の間の約30年で恋愛楽曲の歌詞は少しずつ変化を遂げてきた。自分の意志を伝える歌詞が相手の意志を確認する歌詞へと変わり、相手の行動に自分が何を感じたか伝える歌詞が自分の行動によって相手との関係性がどう変わるのか考える歌詞へと変わった。

加えて、約30年で発達した情報技術によって生まれたSNSがその変化に影響を及ぼしたことは明白である。SNSによりあらゆる情報が可視化されたことは他者の考え方を知る機会を増やし、必ずしも全員が

<sup>10</sup> 田中東子(2013)「オンライン空間と女性たちによる表現文化の分析可能性」『日本マス・コミュニケーション協会マス・コミュニケーション研究』第83号所収、p.80

<sup>11</sup> 三浦展・天笠邦一(2019)『露出する女子、覗き見する女子-SNSとアプリに現れる新階層』ちくま新書、pp.23-24

自分と同じ価値観をもっている訳ではないことに気付くきっかけを与えた。性差を感じる歌詞が減少したことも、SNSにより異性の考え方を知ることが容易になり勝手なイメージや偏見が解消されたからであろう。バブル期から現在までの恋愛楽曲の歌詞は、SNSにより様々な情報が可視化された影響で自分と他者との関係性や違いについて焦点をあて、性差なく歌い上げる歌詞へ変化しているのである。そしてこれからも技術の発展と生活の変化に伴い、恋愛楽曲が何をどのように歌っていくのかは変化し続けるだろう。

(10815文字 原稿用紙27枚相当)

#### 【参考文献及び関連URL】

- ◆伊藤雅光(2017)『Jポップの日本語研究-創作型人工知能のために-』朝倉書店
- ◆シェリー・タークル/日暮雅通訳(2017)『一緒にいてもスマホ SNSとFTF』青土社
- ◆見田宗介(2012)『定本見田宗介著作集IV 近代日本の心情歴史』岩波書店
- ◆三浦展・天笠邦一(2019)『露出する女子、覗き見する女子-SNSとアプリに現れる新階層』ちくま新書
- ◆田中東子(2013)「オンライン空間と女性たちによる表現文化の分析可能性」『日本マス・コミュニケーション協会マス・コミュニケーション研究』第83号所収
- ◆田中浩史(2014)「跡見学園女子大学生のSNS 使用状況に関する調査報告と学生が理想とするSNS 環境についての研究考察」『跡見学園女子大学コミュニケーション文化』第8号所収
- ◆西村順二(2019)「ソーシャルメディアの本質とSNSユーザーの類型」『甲南経営研究』60巻1・2号所収
- ◆正木大貴(2019)「SNSは人間関係を変えたのか？」『京都女子大学現代社会研究科論集』所収
- ◆豊田雄大(2020)「平成30年間における、ヒットソングの歌詞の変遷について」

<http://www.osaka-kvoiku.ac.jp/~kokugo/nonami/2019soturou/tovoda.pdf>

2021年6月18日閲覧